

編 集 後 記

2026年の診療報酬改定ではベースアップ評価料の引き上げや、物価高騰に対する物価対応料の新設などの目新しいポイントがいくつかみられ、全体的にはプラス査定となりましたが、加算を取るためにかかりつけ医機能報告やベースアップ実績計画を2月末までに登録せねばならず、事務方がしっかりした大病院はともかく小規模のクリニックの先生方は結構大変だったのではないのでしょうか。マイナス査定は困りますが、今後もしっかり加算を取るためには煩雑な手続きや設備投資も必要となるでしょう。先が思いやられます。

今月の【誌上ギャラリー】は永田先生よりお寄せいただいた“長閑”。球磨川の支流にかかる古い石橋を写した作品ですが、豊かな川の流れと遠景の満開の桜の木々が強く春を感じさせ、何となく気持ちも穏やかになる一枚です。

【論説と話題】では、2/1に鳥取で開催された第57回若年者心疾患・生活習慣病対策協議会総会と、2/8に東京の日本医師会で開催された令和7年度日本医師会母子保健講習会の模様をご報告していただきました。

【医療トピックス】では大坪先生から、鹿児島市特別支援連携協議会のご報告をいただきました。

【学術】では、今村総合病院総合内科の市来先生から、“すぐにわかりそうな疾患なのになかなか診断に至らなかった症例”と題して最近増加傾向にある梅毒の一例をご報告いただきました。確かに有名な疾患ですが、病期によって多彩な症状がみられるため、所見を見逃さずにシステマティックな鑑別を進めないとなかなか確定診断は困難と思われます。臨床歴40年近い私も未だに経験がありませんし、長年の効率追求（怠慢?）のせいで変なクセがついた現在の診断能力では到底無理でしょうね。まさに“初心忘れるべからず”。反省するとともに大変勉強になりました。

【医師会病院だより】では園田先生から

ペインクリニック内科の診療内容についてご紹介いただきました。

【随筆・その他】では栗先生から、“音楽の散歩道 その10の8：悲しみと苦悩に満ちた真実のショパン、ショパンを見守るサンドとリスト（3）”と題してご寄稿いただきました。単なる楽曲紹介ではなく、作曲者の交友関係やその時代背景を加味したボリュームのある内容で、毎回感心して拝読させていただいております。リレー随筆は県立大島病院の渋谷先生から“奄美で牛を買ってみて”と題して、実際に競りで肉牛を購入して飼育している珍しい経験をマニアックに綴っていただきました。

【区・支部だより】では、荒田・中央・武岡各支部の支部会と、北区懇談会の模様をご紹介いただきました。特に武岡支部会は面白い趣向で開催されていたようです。

【各種部会だより・各種報告】では、2月中旬から3月中旬までに鹿児島市内で開催された医会、報告会、研修会が紹介されます。ご一読ください。

【鹿市医狂壇】4号の題吟は「“も一度（もいっど）”」でした。力作のご投稿ありがとうございます。俳句は興味あるけど薩摩狂句はよくわからないとお思いの先生方、俳句の形式で投稿していただければ、選者の樋口先生が狂句の形式に手直しして下さいますので、会員の先生方も是非挑戦してみてください。

昨年は開花が早く、4月上旬には早々と散ってしまった桜でしたが、今年は例年通りで、近所の甲突川沿いの桜並木も見頃になっています。以前はたこ焼きや焼きとうもろこしの夜店ばかりでしたが、最近はキッチンカーや曜日によっては博多をイメージした屋台も出ていてなかなかの賑わい。花見客のバーベキューの匂いと喧騒に紛れながらの夜の散策も楽しいものです。

（編集委員 寺口 博幸）